

広島県立大門高等学校

実施日：令和5年2月16日（木）15：20～16：10
講師：外務省 大臣官房G7広島サミット事務局 課長補佐 野島 久長
形式：対面
内容：講座
参加人数：264名

当日の様子



参加者の主な感想

- ・ 今回の講義を受けるまでは、外交官やG7サミットという言葉がとても遠い存在に感じていたが、親しみやすく面白くて、興味が持てた。
- ・ 伝えたいことが思いと一緒に伝わった。G7の意義などがしっかり理解できたし、広島だからこそ発信することのできる核についての考え方が素晴らしかった。
- ・ 様々な詳しい具体例やたくさんの資料を交えて話して下さい、ありがとうございました。
- ・ 国や地域の数だけ正しさがあり、それらの違いを調和していくことが重要なことだと分かった。
- ・ 日本と海外では世界地図が違うことを知った。一つの対象を複数の視点から分析することが大切だと分かった。
- ・ 発電の話では、それぞれメリットデメリットがあり、一つの考え方に捉われることなく、多方面から課題と向き合うことの大切さを感じることができた。
- ・ G7サミットは、小さな円卓を囲んで近い距離で自由な意見交換を行う点が一般的な国際会議と異なると分かった。
- ・ 現在の世界情勢を踏まえ、世界に向けて核兵器廃絶や人権のことを広島から発信することに大きな意味があると思った。
- ・ 世界人口の71%が独裁国家に暮らしていると知ってとても驚いた。
- ・ 外務省はサミットを開催する上で様々な方針を考え、運用で大切なことをサポートすることが分かった。宿舎や食事などの手配は一つミスをするとかかなりの人に影響を及ぼす重要な役割だ。